



第3号

こうふ市薬 だより

目次

1. 中高生公開講座ワークショップ

「異文化体験学習を通して、

薬剤師・医療従事者の目指す姿を考える」

2. 甲府市薬剤師会主催「市民 くすりと健康の講演会」

3. 平成26年度 第2回在宅療養推進研修会

 (公社)甲府市薬剤師会

〒400-0857 山梨県甲府市幸町 14-6

TEL:055-236-5200

FAX:055-236-5201

HP:<http://www.kofushiyaaku.jp/>

中高生公開講座ワークショップ 「異文化体験学習を通して、薬剤師・医療従事者の目指す姿を考える」

公益社団法人 甲府市薬剤師会
生涯学習委員会 委員 渡辺正則

平成 26 年 12 月 23 日、中高生を対象とした公開講座を開催しました。今回もたくさんの中高生に参加をいただき、無事成功させることができました。

これまでの中高生公開講座では、「薬害」について取り上げ、過去の事例を知ってもらうとともに、「医療従事者」、「国民」、「行政」、「企業」のそれぞれの視点から、どのように薬害を防いでいくのかを考えてもらいました。この薬害というテーマは、教材が充実していること、薬剤師の関わりが明確であること、これまでの経験やノウハウを活かせることから、開催しやすいテーマでした。

しかし 4 回目を迎え、生涯学習委員会は新たなテーマの開拓が必要だと感じていました。

検討の結果、東京理科大学の後藤恵子教授のご協力をいただき、「異文化体験学習」をとおして、医療従事者と患者の間にあるギャップを体感、理解してもらうことにしました。参加した中高生が、将来、医療従事者になった時、患者に寄り添った医療を提供する一助になると考えたのです。

講座の大半の時間は、「異文化に触れる」ということを実際にゲームで体感してもらいました。次回以降の開催に影響があるので、ゲームの内容をご紹介できないのですが、今まで見たことも聞いたこともない斬新なゲームでした。そのため、全体の流れやルールを理解、進行管理にとても苦労しました。また、これまでのグループディスカッションと異なり、学生たちがどのような反応を示すのか、全く想像することができず、不安でいっぱいのまま当日を迎えました。

当日は、多くの方々のご協力をいただきスムーズな進行ができました。参加した中高生も最初は戸惑っていましたが、ゲームに参加するうちに打解け、最後に後藤教授からの解説を聞き、この公開講座の趣旨を理解してくれていました。なによりも、純粹にゲームを楽しんでくれていた彼らの姿はとても印象的でした。

中高生公開講座は、生涯学習委員会だけで開催することはできません。事前準備、当日の運営には他の委員会の先生方や事務局の方のご協力が必要です。また、生徒たちとのコミュニケーション方法や効果的な説明の仕方について、教職員の先生方からご意見、ご協力をいただくことは貴重な機会です。この場をお借りして、あらためて御礼申し上げます。

検討から準備、関係各所との調整など作業量も多く、大変な事業ではありますが、多くのことを学び、多くの方と触れ、多くの喜びがあります。興味のある方、運営にかかわってみたい方は、ぜひ生涯学習委員会までお声掛けください。



甲府市薬剤師会主催「市民 くすりと健康の講演会」

生涯学習委員会

百瀬 美紀

平成 27 年 3 月 8 日（日）、山梨県立図書館 2 階多目的ホールにおいて開催した。

今回は薬を安全に使っていただくために「薬のリスク～一緒に考えてみましょう～」と題し、慶應義塾大学薬学部長 医薬品情報学教授 望月 真由美先生と「COPD って何？ 肺の生活習慣病」と題し、大久保内科呼吸器科クリニック医院長 大久保 修一先生のお二人に御講演いただいた。

当日は天気も良く聴講くださる方々の出足も好調で、開場の一時間も前から受け付けに問い合わせに来る方たちがあとをたたなかった。

開場の 12 時を過ぎるとあっという間に予定していた 200 名の来場をいただき、入場をお断りせざるを得ないほど大盛況だった。

望月先生からは健康を維持するための原則にはじまり、薬・保健機能食品・一般食品の分類、薬の買い方・選び方、使いはじめる時の注意点など、主に OTC の適正使用・副作用の話など薬を使用する上での心得をわかりやすく講演いただいた。



大久保先生からは、COPD の病態、世の中における病気の認知度にはじまり、死亡率の高い疾患であること、COPD であると認識していない患者さんが多いこと、全身の病気で治らない疾患であることなど、普段なかなか聞くことのできないお話をわかりやくお話しいただき、皆さんの興味をひくものであった。

両講演とも質問が殺到し、皆様の関心の深さが伺えた。

講演後、資料の問い合わせも多く、大盛況のうちに閉会した。

今後とも会員の先生方の御協力をよろしく願いいたします。

平成 26 年度 第 2 回在宅療養推進研修会

(公社) 甲府市薬剤師会
医療保険委員会 渡邊 泉

甲府市薬剤師会 医療保険委員会では日本薬剤師会より示された在宅療養推進アクションプランに基づき研修会を計画、実施してきました。これまでも外部講師を招いての講習会形式の研修会を開催してきましたが、このたび甲府市地域包括支援センターの協力を得て、平成 27 年 2 月 21 日 (土) に甲府市地域医療センターにて介護支援専門員の方との SGD 形式による合同研修会を実施しました。

研修会へは甲府市地域包括支援センターより 6 名、居宅介護支援事業所より 6 名の介護支援専門員の方と、甲府市薬剤師会保険薬局より 16 名の薬剤師が参加しました。

グループワークの前に甲府市西地域包括支援センター 久田美佐子様より「住み慣れた地域で暮らし続けるために 甲府市市域包括ケア体制と地域包括支援センターとは」、医療保険委員会 佐藤隆委員より「薬局薬剤師の在宅支援の現状について」と題してそれぞれお話いただきました。久田様からは高齢者の保健医療の向上、福祉の増進に関して、地域支援体制を構築するための地域包括支援センターの役割や主な業務等について説明を受けました。地域の人や組織・団体がつながることで市域包括ケア体制がより強固なものとなるとのことで、私たち薬剤師のより積極的な参加の必要性を感じました。



グループワークではテーマを「お互いの仕事内容の確認について (・在宅支援で困っていること・専門性を知り、在宅医療の推進のためにお互いに何ができるか)」とし、3 グループに分かれてプロダクトの作成・発表を行いました。どのグループにおいても共通の課題として福祉と薬局の連携における問題点が挙げられていました。また介護支援専門員の方からは、薬に関する相談を

し易い体制を構築してもらいたい、退院時カンファレンスに積極的に参加して薬の説明してもらいたい等の薬局への要望も多く聞かれました。

これからも重要性を増す地域連携の促進のために、薬局の機能・業務を他職種に理解していただくためにもこのような研修会は今後も必要であると感じました。

